

2007年3月期(第36期) 中間決算説明会

2006年11月10日

エヌアイシ・オートテック株式会社

代表取締役社長 西川浩司



JASDAQ

証券コード:5742

目次



I. 2007年3月期 中間決算の概要	P 3 ~ P17
II. 2007年3月期 通期業績予想	P18 ~ P25
III. 今後の施策	P26 ~ P31
IV. 会社概況	P32 ~ P41

I. 2007年3月期 中間決算の概要

中間期業績推移(要約財務諸表)

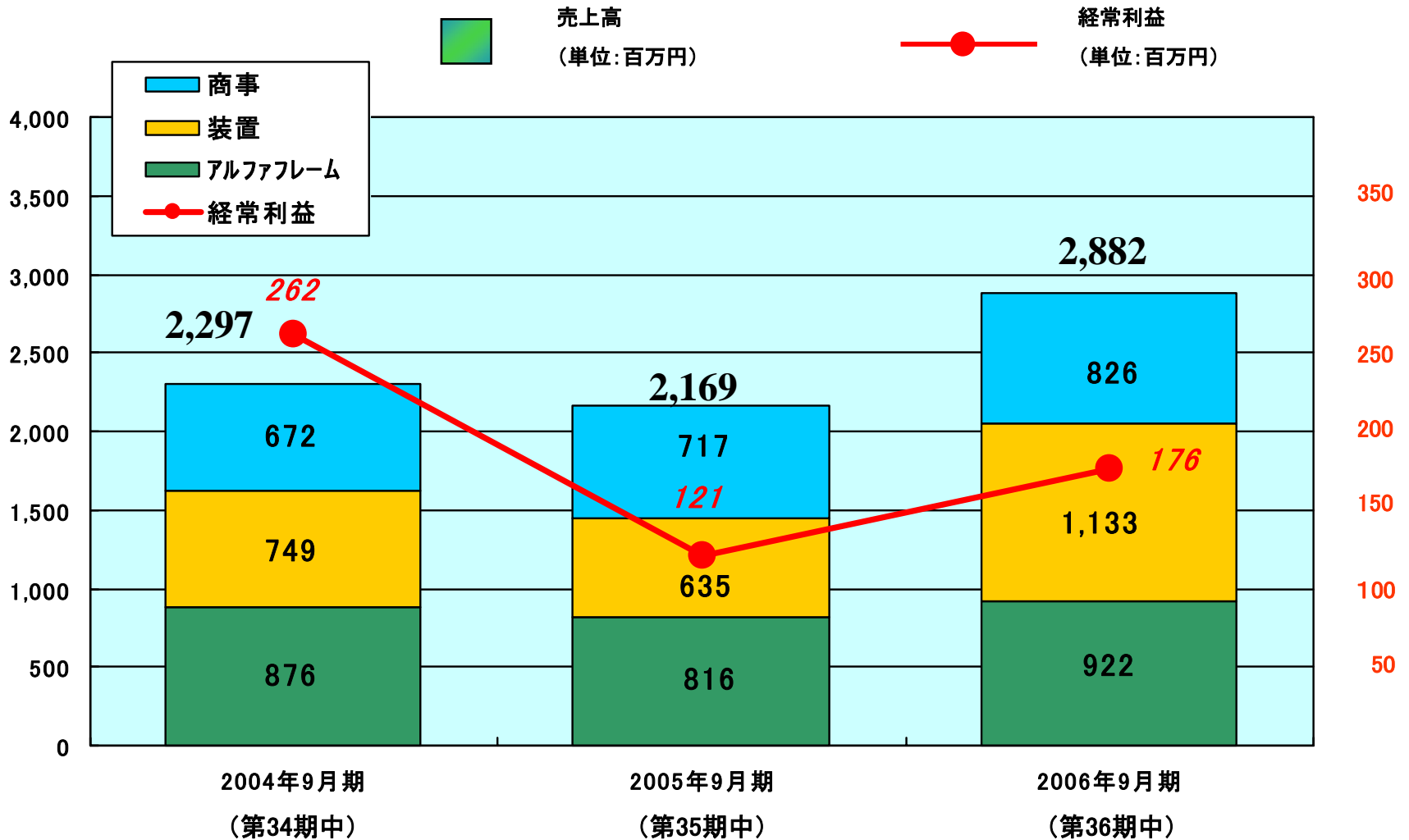


(単位:百万円) <ご参考>

	第34期中 2004年9月期	第35期中 2005年9月期	第36期中 2006年9月期	第34期 2005年3月期	第35期 2006年3月期	第36期 2007年3月期
売上高	2,297	2,169	2,882	5,757	4,730	6,232
売上総利益	694	587	656	1,250	1,276	1,423
営業利益	263	120	184	302	358	390
経常利益	262	121	176	302	370	385
経常利益率	11.4%	5.6%	6.1%	5.3%	7.8%	6.2%
純利益(当期・中間)	147	78	99	157	221	231
純資産額	2,020	2,096	2,577	2,048	2,285	—
総資産	4,001	3,843	4,909	4,294	3,977	—
株主資本比率	50.5%	54.5%	52.5%	47.7%	57.4%	—
ROE	7.3%	3.7%	4.1%	7.9%	10.2%	—
ROA	6.6%	3.1%	4.2%	7.6%	8.7%	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

中間売上高及び経常利益の推移



中間決算概要(P/L) 計画対比

(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2 0 0 6 年 9 月 期)		当 中 間 計 画 (2 0 0 6 年 9 月 期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2 0 0 5 年 9 月 期)		前 年 比
売 上 高	2,882	100%	2,760	100%	104%	2,169	100%	133%
売上総利益	656	23%	681	25%	96%	587	27%	112%
営業利益	184	6%	171	6%	108%	120	6%	153%
経常利益	176	6%	164	6%	107%	121	6%	146%
中間(当期)純利益	99	3%	98	4%	101%	78	4%	127%

- 売上高 …………… 好調な半導体関連及び自動車関連業界からの継続的受注による増収
- 売上総利益 …………… 原材料価格の高騰による売上原価の増加により減益
- 営業利益 …………… 上場経費で販売管理費10百万円増だが、売上高伸長及び経費削減がこれを吸収し増益
- 経常利益 …………… 売上高の伸長による増益
- 中間(当期)純利益 …… 増益等による法人税等の増加による増益

品目別中間売上高(アルファフレーム部門)

(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2 0 0 6 年 9 月 期)		当 中 間 計 画 (2 0 0 6 年 9 月 期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2 0 0 5 年 9 月 期)		前 年 比
アルファフレーム	452	49%	492	51%	92%	427	52%	106%
補 助 部 品	370	40%	376	39%	98%	319	39%	116%
そ の 他	99	11%	96	10%	102%	69	9%	142%

- アルファフレーム …… 計画未達であるが、当社の特徴である技術力を活かしたアルミ構造材の普及並びに提案営業の強化を開始、前年比で堅調に推移
- 補助部品 …… フレームを結合するブラケット等の補助部品の売上は、計画未達であるが、前年比及び構成比も増加して堅調に推移
- その他 …… その他は、「顧客ニーズの多様化に伴う追加加工の増加」及び「納期短縮化に伴う加工及び組立の増加」傾向に伴う売上が中心で、前年比及び構成比も増加して堅調に推移

販売先別中間売上高(アルファフレーム部門)



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2 0 0 6 年 9 月 期)		当 中 間 計 画 (2 0 0 6 年 9 月 期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2 0 0 5 年 9 月 期)		前 年 比
代理店販売	808	88%	850	88%	95%	747	92%	108%
直接販売	113	12%	115	12%	98%	69	8%	164%

- 代理店販売 …… 計画未達であるが、代理店営業マンの商品知識とモチベーション向上のため、定期的な勉強会の開催や分かりやすいカタログの作成を通じて前年比で堅調に推移
- 直接販売 …… 計画未達であるが、個別に強度解析等の支援を必要とする大口ユーザーに対して直接サポートが可能な直接販売体制の整備を行っており、前年比で堅調に推移

品目別中間売上高(装置部門)



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2 0 0 6 年 9 月 期)		当 中 間 計 画 (2 0 0 6 年 9 月 期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2 0 0 5 年 9 月 期)		前 年 比
	金額	計画比	金額	計画比		金額	計画比	
洗 浄 装 置	63	6%	98	11%	64%	110	17%	57%
検 査 装 置	46	4%	56	6%	83%	63	10%	73%
搬 送 ・ 梱 包 装 置	459	41%	179	19%	257%	17	3%	2622%
ク リ ー ン ブ ー ス	261	23%	363	39%	72%	148	23%	175%
ア ル ミ 構 造 物	97	9%	60	7%	162%	115	18%	85%
そ の 他	205	18%	171	18%	119%	179	28%	115%

- 洗浄装置 …… 計画未達であるが、大型機に代わり競争力のある中型機を中心に堅調に推移
- 検査装置 …… 新規開発検査装置(洗浄機+検査機一体型)が下期ズレ込み計画未達
- 搬送・梱包装置 …… 光ディスク製造装置等の継続的な大口受注により大幅伸長
- クリーンブース …… FPD製造設備用計画が遅れ計画未達であるが、カスタムクリーンブース市場は拡大傾向
- アルミ構造物 …… クリーン設備関係を中心に堅調
- その他 …… クリーン関連部品(FFU、パネル等)及び顧客専用の型材製品も堅調

販売先別中間売上高(装置部門)



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2006年9月期)		当 中 間 計 画 (2006年9月期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2005年9月期)		前 年 比
	金額	計画比	金額	計画比		金額	計画比	
自動車部品	155	14%	206	22%	75%	194	31%	80%
家電関係	470	42%	136	15%	345%	35	6%	1309%
弱電関係	19	2%	16	2%	119%	5	1%	335%
機械関係	428	38%	524	56%	82%	365	58%	117%
食品関係	0	0%	5	1%	18%	0	0%	125%
薬品関係	4	0%	10	1%	46%	0	0%	468%
その他	53	5%	30	3%	174%	31	5%	171%

- 自動車部品 …… 新規開発検査装置(洗浄機+検査機一体型)が下期ズレ込み計画未達
- 家電関係 …… 光ディスク製造装置等の継続的な大口受注により大幅伸長
- 弱電関係 …… 製造装置用カスタムクリーンブースが堅調
- 機械関係 …… 計画未達であるが、昨年来より堅調に推移し前年比でも堅調

品目別中間売上高(商事部門)



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2006年9月期)		当 中 間 計 画 (2006年9月期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2005年9月期)		前 年 比
	金額	計画比	金額	計画比		金額	計画比	
工業用砥石・油脂類	134	16%	126	15%	107%	136	19%	98%
機 械 設 備	331	40%	370	43%	89%	280	39%	118%
工 具 ・ ツ ー ル	306	37%	313	36%	98%	250	35%	123%
そ の 他	54	7%	56	6%	98%	50	7%	109%

- 工業用砥石・油脂類 …… 好調な設備投資を背景に堅調に推移
- 機械設備 …………… 下期のズレ込みにより計画未達であるが、好調な機械設備投資を背景に前年比で堅調に推移
- 工具・ツール …………… 計画未達であるが、好調な機械設備投資を背景に前年比で堅調に推移
- その他 …………… 計画未達であるが、好調な機械設備投資を背景に前年比で堅調に推移

販売先別中間売上高(商事部門)

(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2 0 0 6 年 9 月 期)		当 中 間 計 画 (2 0 0 6 年 9 月 期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2 0 0 5 年 9 月 期)		前 年 比
	金額	計画比	金額	計画比		金額	計画比	
地元大手企業	276	34%	315	36%	88%	290	40%	95%
そ の 他	549	66%	550	64%	100%	427	60%	129%

- 地元大手企業 … 機械設備が下期にずれ込み計画未達
- その他 …………… 工具類及び消耗材は計画未達であるが、工業用砥石は好調

中間決算概要(P/L) 前年比



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2006年9月期)		前 年 実 績 (2005年9月期)		増 減	前年比	要 因
売 上 高	2,882	100%	2,169	100%	712	133%	・好調な半導体関連及び自動車関連業界からの継続的受注による増加
売上総利益	656	23%	587	27%	68	112%	・原材料価格の高騰による売上原価の増加により粗利益率低下するも前期比12%増加
営 業 利 益	184	6%	120	6%	64	153%	・給与賞与146 ・役員報酬57 ・運賃48
経 常 利 益	176	6%	121	6%	55	146%	・営業外収益…仕入値引2 ・営業外費用…株式交付費10、支払利息1
中間純利益	99	3%	78	4%	20	127%	・増益等による法人税等の増加

	当 中 間 実 績 (2006年9月期)		前 年 実 績 (2005年9月期)		増 減	前年比	要 因
研究開発費	30		36		▲5	84%	・共同研究開発費用等による減少

中間決算概要(B/S)



(単位:百万円)

	当中間期末 (2006年9月末)	前 期 末 (2006年3月末)	増 減	増 減 内 容
総 資 産	4,909	3,843	1,065	・現金及び預金、受取手形、売掛金、未収入金の増加
(棚 卸 資 産)	615	520	94	・装置部門(FA装置・クリーンブース)の仕掛品等の増加
負 債	2,331	1,747	584	・支払手形、買掛金、退職給付引当金の増加
(有 利 子 負 債)	568	753	▲185	・短期借入金、社債、長期借入金等の減少
純 資 産	2,577	2,096	481	・公募増資に伴う資本金及び資本剰余金の増加 ・利益剰余金の増加

	当中間実績 (2006年9月期)	前 年 実 績 (2005年9月期)	増 減	増 減 内 容
設備投資額	7	10	▲2	・前期の金型取得及び当期大型設備投資がなく減少 (下期は、技術開発センター設立予定)
減価償却費	31	35	▲4	・既存設備の償却の伴う減少 (同上)

中間決算概要(キャッシュ・フロー)



(単位:百万円)

	当中間実績 (2006年9月期)	前年実績 (2005年9月期)	増 減	要 因
営業活動	119	▲143	263	<ul style="list-style-type: none"> ・税引前中間純利益の増加による資金増加+44 ・仕入債務の増加による資金増加+1,219 ・売上債権の増加による資金減少▲1,005 ・たな卸試算の増加による資金減少▲29
投資活動	▲322	19	▲341	<ul style="list-style-type: none"> ・投資有価証券の取得による資金減少▲299
財務活動	206	60	146	<ul style="list-style-type: none"> ・株式の発行による資金増加+251 ・短期借入金の純増減による資金減少▲193 ・長期借入金の返済による資金増加+88
現預金残高	171	126	44	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の各要因による資金増加+44

中間決算概要(受注実績)

(単位:百万円)

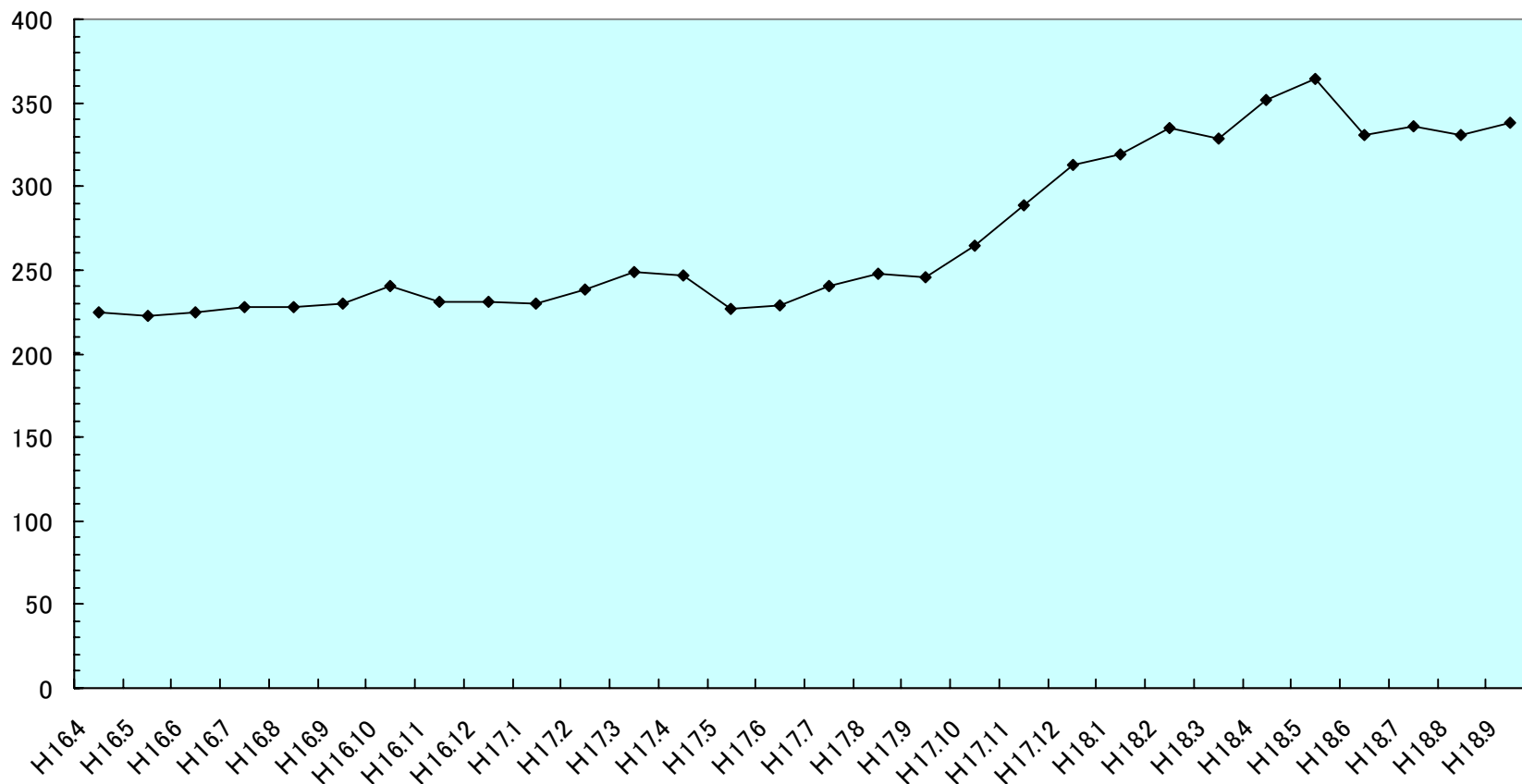
	当 中 間 期 末 (2 0 0 6 年 9 月 末)		前 期 末 (2 0 0 6 年 3 月 末)		前 期 比	
	受 注 高	受 注 残 高	受 注 高	受 注 残 高	受 注 高	受 注 残 高
アルファフレーム部門	904	48	821	49	110%	97%
装 置 部 門	1,449	663	657	402	220%	165%
商 事 部 門	2,261	1,489	777	179	291%	829%
合 計	4,614	2,201	2,257	631	204%	348%

- アルファフレーム部門 … デジタル家電関連業界からの受注好調、技術力を活用した提案営業活動が堅調
- 装置部門 …… 光ディスク製造装置及びカスタムクリーンブース等の継続的な大口受注により大幅伸長
- 商事部門 …… 大型機械設備の受注により大幅伸長

中間決算概要(アルミ地金価格推移)



(単位:円/Kg)



※ 日経市況データより

Ⅱ. 2007年3月期 通期業績予想

業績推移(要約財務諸表)



(単位:百万円) <ご参考>

	第31期 2002年3月期	第32期 2003年3月期	第33期 2004年3月期	第34期 2005年3月期	第35期 2006年3月期	第36期 2007年3月期
売上高	1,753	3,239	3,577	5,757	4,730	6,232
売上総利益	—	—	1,029	1,250	1,276	1,423
営業利益	—	—	226	302	358	390
経常利益	27	25	207	302	370	385
経常利益率	1.6%	0.8%	5.8%	5.3%	7.8%	6.2%
当期純利益	13	48	129	157	221	231
純資産額	1,310	1,766	1,912	2,048	2,285	—
総資産	2,613	3,366	3,694	4,294	3,977	—
株主資本比率	50.2%	52.5%	51.7%	47.7%	57.4%	—
ROE	1.1%	2.8%	7.0%	7.9%	10.2%	—
ROA	—	—	6.4%	7.6%	8.7%	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

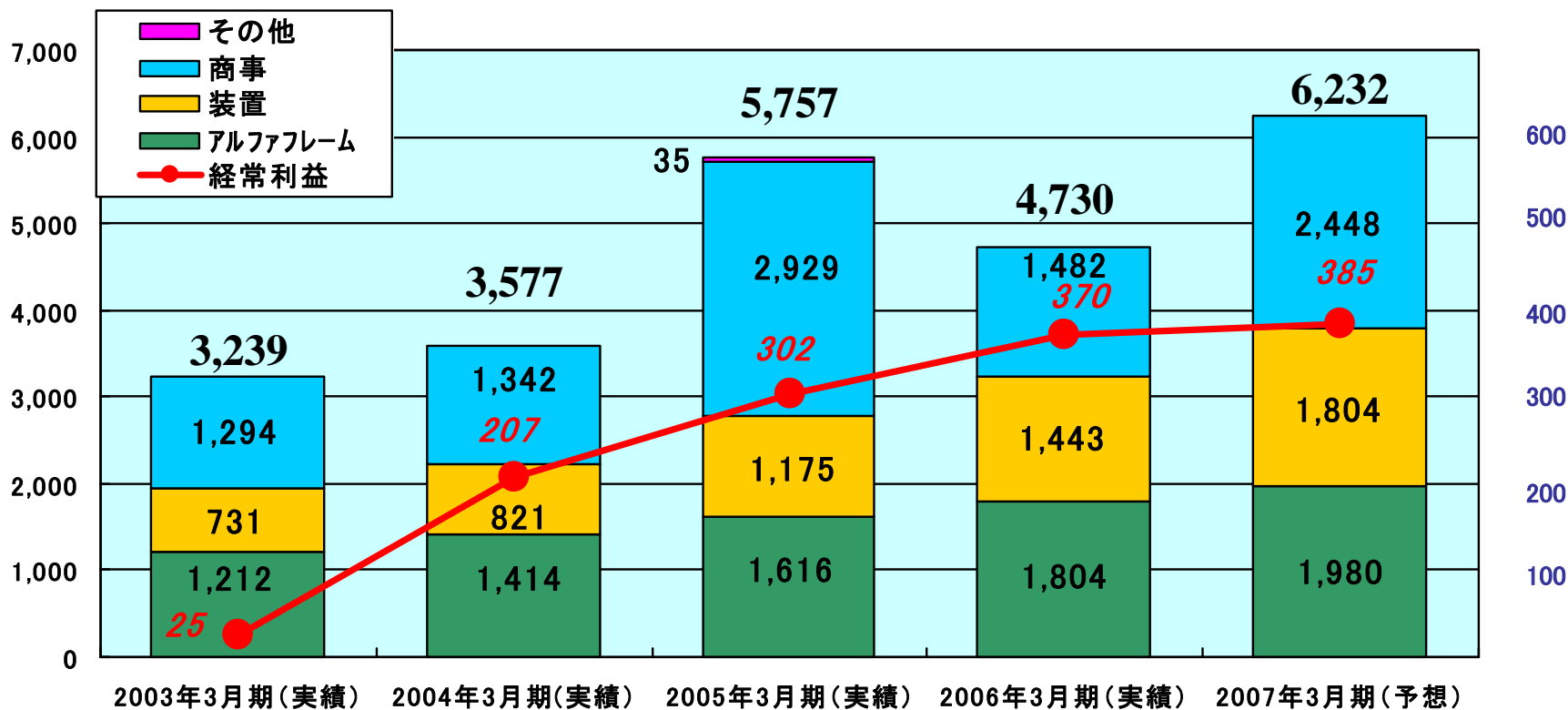
利益計画(売上高及び経常利益の推移)



売上高
(単位:百万円)



経常利益
(単位:百万円)



部門別売上高(アルファフレーム部門) 前期比



(単位:百万円)

品目別	今期計画 (2007年3月期予想)		前期(参考) (2006年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
アルファフレーム	1,009	51%	943	52%	66	107%	・薄型テレビ主軸のデジタル家電関連好調 ・当社技術力を活かした提案営業の強化
補助部品	772	39%	706	39%	65	109%	※上記アルファフレームに同じ
その他	198	10%	153	9%	44	129%	・顧客ニーズの多様化に伴う追加加工の増加 ・納期短縮化に伴う加工及び組立の増加

販売先別	今期計画 (2007年3月期予想)		前期(参考) (2006年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
代理店販売	1,742	88%	1,655	92%	86	105%	・当社技術力を活かした提案営業の強化 ・各種技術面におけるサポート強化
直接販売	237	12%	148	8%	89	160%	・強度解析等による大口ユーザーへの直接サポート(設計支援等)を強化 ・当社ホームページ問合せ及び展示会来訪者に対する組織的フォローの強化

品目別売上高(装置部門) 前期比



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2007年3月期予想)		前 期 (参 考) (2006年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
洗 浄 装 置	309	17%	249	17%	59	124%	・大型洗浄機の堅調に伴う増収 ・標準(小型洗浄機)及び中型洗浄機の需要は堅調
検 査 装 置	129	7%	173	12%	▲43	75%	・洗浄機の中小型化に伴う減収 ・小型検査機及び中型検査機の需要は堅調 ・部品洗浄計測装置(新開発)が堅調
搬送・梱包装置	305	17%	44	3%	260	680%	・中間期で今期計画達成済(中間期実績459) ・光ディスク製造装置等の大口受注で大幅伸長
クリーンブース	571	32%	427	30%	143	134%	・カスタムクリーンブース市場は拡大傾向 ・FPD製造設備用も増収
アルミ構造物	143	8%	191	13%	▲47	75%	・クリーン対応安全カバー等が堅調するも減収
そ の 他	345	19%	358	25%	▲12	97%	・クリーン関連部品(FFU、パネル等)及びアルファレール等の専用型材も堅調するも減収

販売先別売上高(装置部門) 前期比



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2007年3月期予想)		前 期 (参 考) (2006年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
自動車部品	494	27%	463	32%	30	107%	・部品洗浄計測装置(新開発)による増収 ・同業界は、数年来継続して好調を維持
家電関係	155	9%	109	8%	46	142%	・中間期で今期計画達成済(中間期実績470) ・光ディスク製造装置等の大口受注で大幅伸長 ・上記以外の従来取引先も堅調
弱电関係	35	2%	9	1%	26	381%	・製造装置用カスタムクリーンブースが堅調
機械関係	1,032	57%	772	53%	259	134%	・景気回復による波及効果により堅調
食品関係	10	1%	0	0%	9	1337%	・クリーン設備関連市場は堅調
薬品関係	20	1%	4	0%	15	409%	・クリーン設備関連市場は堅調
その他	56	3%	83	6%	▲26	68%	・中間期実績53(達成率95%) ・設備投資関連市場は堅調 ・クリーン設備関連市場は堅調 ・標準品の組立加工等も堅調

部門別売上高(商事部門) 前期比



(単位:百万円)

品目別	今期計画 (2007年3月期予想)		前期(参考) (2006年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
工業用砥石・ 油脂類	244	10%	268	18%	▲23	91%	・好調な設備投資を背景に堅調 ・新規機械設備導入による消耗品等の減少
機械設備	1,555	64%	565	38%	989	275%	・好調な設備投資を背景に堅調 ・地元大手企業の大型案件による増収
工具・ツール	543	22%	543	37%	0	100%	・好調な設備投資を背景に前年並を予想
その他	105	4%	104	7%	0	100%	・好調な設備投資を背景にほぼ前年並を予想

販売先別	今期計画 (2007年3月期予想)		前期(参考) (2006年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
地元大手企業	1,780	73%	826	56%	953	215%	・好調な設備投資を背景に堅調 ・地元大手企業の大型案件による増収
その他	668	27%	655	44%	12	102%	・好調な設備投資を背景に前年より微増

通期業績の概要 前期比



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2007年3月期予想)		前 期 (参 考) (2006年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
売 上 高	6,232	100%	4,730	100%	1,502	132%	・好調な半導体関連及び自動車関連業界からの継続的受注による増加
売上総利益	1,423	23%	1,276	27%	147	112%	・原材料価格の高騰による売上原価の増加により粗利益率低下するも前期比12%増加
営 業 利 益	390	6%	358	8%	31	109%	・給与賞与370 ・役員報酬110 ・運賃107
経 常 利 益	385	6%	370	8%	14	104%	・営業外収益・・・仕入値引8 ・営業外費用・・・株式交付費10、支払利息3
当期純利益	231	4%	221	5%	9	104%	・増益等による法人税等の増加
設 備 投 資	237	—	15	—	221	1555%	・技術開発センター建設 150 ・既存設備の更新 87
減価償却費	70	—	62	—	7	112%	・技術開発センター関連償却費用による増加
研究開発費	79	—	65	—	14	122%	・業容拡大の為にの新商品・新技術の開発による増加

Ⅲ. 今後の施策

当社ビジネスの優位性



■ シナジーを活かした総合力

■ アルファフレーム部門

ALFA FRAME® SYSTEM の
シリーズ化

- ・高剛性フレーム
- ・アルファコンベア
- ・アルファレール

■ 装置製造から生まれた

ALFA FRAME® SYSTEM

■ アルミの特性を活かした機械装置の開発製造

■ 装置部門

自動・省力化装置、周辺
機器の研究開発

- ・国内初の半導体工場向け
ミニエンバイロメント設備受注
- ・標準クリーンブース開発

■ 当社製品(ALFA FRAME® SYSTEM)を組み合

わせた洗浄・検査・搬送梱包の各種装置の販売

■ 「メーカー機能」を活用した設備導入提案

■ 商事部門

輸入・国産工作
機械取扱い

- ・大型自動車部品ラインの受注

1927

1971

1986

事業環境

- ◆ 国内外における自動車関連事業の高水準な設備投資
- ◆ FPD業界の技術革新と旺盛な設備投資などエレクトロニクス業界の活況
- ◆ 先端技術の微細化に伴うクリーン関連製品への注目度増大
- ◆ 鉄からアルミへの代替促進などアルミフレーム市場の拡大
- ◆ 人材不足による生産設備の自動化、省力化の更なる進行
- ◆ 企業活動の変革とスピートアップ

当社の競争力




アルファ フレーム 部門

- アルミ構造部材の国内でのパイオニア的存在
- 設計ノウハウを活かした設計支援などの質の高いサービスの提供
- 新製品開発力
- システムとして完成された豊富なフレーム、アクセサリ類製品

装置 部門

- 幅広い業界で利用される要素技術の蓄積
- 特定の業界や取引先に過度に依存しない取引構造
- 当社技術力を評価するリーディングカンパニーを固定客に持つ

- 
- 各部門が相互にシナジー効果を活かしつつ、専門的なソリューションを提供する企業
 - 常に新しい独自の技術の開発を促す技術ベンチャーの気風

開発の基本方針



開発

技術開発センターを設立し開発力をさらに強化

3部門のシナジーを活かし、早期商品化を目指した製品開発

- 標準化・汎用化
- アルファフレーム製品、アクセサリ類の改良／開発
- 装置関連技術の開発



標準カップ式洗浄機

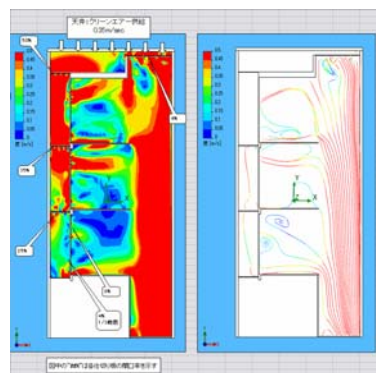
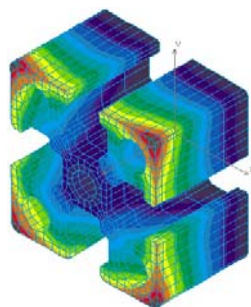


標準クリーンブース

安定的・持続的な収益力を高める研究開発

- 新素材等の基礎研究

マグネシウム合金
樹脂フレーム 等



クリーンストッカーの
気流解析



生産・技術

- 生産能力の増強 → 協力工場の確保
- 他社との提携による技術分野の拡大
- 標準化・汎用化製品ラインアップの充実
- 3部門のシナジー効果を活かした製品開発
- 人材の確保 → 技術力、技術者の確保

営業

- 質の高いサービスの提供(短納期、設計支援、ソリューションの提供)
- 販売チャネルの多様化
- 価格競争力の強化
- 専用フレーム開発 → 大口ユーザーの定着

IV. 会社概況

会社の概要

- 会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社
- 設立年月日 昭和46年5月17日
- 代表社名 代表取締役社長 西川 浩司
- 本社所在地 富山県富山市清水元町7番8号
- 東京本社 東京都江東区有明三丁目1番25号
有明フロンティアビルB棟 11階
- 資本金 156,100千円(平成18年9月末日現在)
- 従業員数 164名うち正社員132名(平成18年9月末日現在)
- 事業内容
 - ① アルミ構造材「ALFA FRAME® SYSTEM」の製造販売
 - ② アルファフレームシステムを使用したFA装置、
クリーンブース、構造物の製造販売
 - ③ 富山県を地盤とした地域密着型工業生産財商社



沿革

・来年は創業80年の長い歴史を有する(時代と共に変革)



1920

1960

1970

1980

1990

2000

当社を存続会社として(株)クレトを吸収合併 **2002年4月** ●

ニック・セイコー・マイスナーヴウルスト社を解散し、同社のクリーン
関連事業を移管し、クリーンブースの製造・販売を開始 **2001年3月** ●

セイコー電子工業(株)、マイスナー・ヴウルスト社と共に **1997年12月** ●
ニック・セイコー・マイスナーヴウルスト社を設立し、クリーン関連事業を開始

東京都千代田区平河町に東京支店(現・東京本社)を開設 **1993年2月** ●



● **1988年5月** アルミ構造材「ALFA FRAME ® SYSTEM」を商品化し、
アルファフレームの製造及び販売を開始

● **1986年4月** 産業用アルミフレーム「アルファフレーム」を開発

● **1971年5月** 富山県富山市にキュノ・トヤマセールスを設立し、搬送装置及び
周辺装置の設計・製造を開始

<設立後>

<設立前>

● **1970年10月** クレト商会を(株)クレトに商号変更

● **1960年3月** 西川鑪製作所をクレト商会に商号変更

● **1927年4月** 鑪(やすり)の製造及び加工を事業目的として、富山県富山市に西川鑪製作所を設立



3つの事業部門



機械要素部品の生産から高度な装置製造・販売までの一貫体制

1. アルファフレーム部門



ボルトだけで構造体を組立てることができるフレキシブルなアルミ構造材
「ALFA FRAME® SYSTEM」
の製造販売

2. 装置部門

アルファフレームシステムを使用したFA装置、クリーンブース、構造物の製造販売



3. 商事部門

富山県を地盤とした
地域密着型工業生産財商社



アルファフレーム部門(1)



■ 強度解析とアルミ押出し技術が生み出す品質

■ 総合システムとしての高い完成度 (ALFA FRAME® SYSTEM)



230種類を超えるアルミフレーム製品



【アルファフレームの特徴】

1. 環境にやさしいリサイクル性
2. 軽く強く美しいフレーム
3. 急な設計変更や増設に対応
4. 豊富な製品ラインナップ
5. 幅広い分野に対応

知的財産権：（平成18年3月31日現在）

特許権 34件 意匠権 70件

【スチール製構造部材との比較】 ※当社調べ

- スチール製構造部材(6つの加工工程) …… 設計+切断+溶接+機械加工+塗装+組立
- ALFA FRAME® SYSTEM(3つの加工工程) … 設計+切断+組立

アルファフレーム部門(2)



■ 専門CAD設計陣による 設計支援サービスで広範な用途を提供

エレクトロニクス

DVD・携帯電話
PDP・TFT液晶ディスプレイ



自動車

PL対応のマシンツール用
パーテーション



半導体

超微細化半導体用
クリーンブース



製薬・食品 箱詰ライン



公共施設・病院 メディカルワゴン



専用フレーム

公園などに設置する街灯のボディー
直交ロボットのマインフレーム
エアシリンダーのボディー
コンベアフレーム、コンプレッサー部品

装置部門(1)

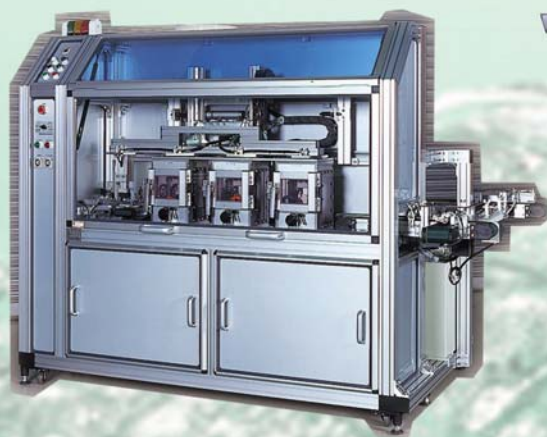


- 洗浄装置(FA装置) 部品製造工程において、切削切粉等の削りかすを除去

■ 当社独自の洗浄方式

標準カップ式洗浄機

ボックス式洗浄機



NEW

「ALFA FRAME® SYSTEM」を基本部材として使用することにより、製造の効率化や短納期化が可能

自動車分野をはじめ電子、電子部品、家電メーカーなど幅広い業種に納入

装置部門(2)



● 検査装置(FA装置)

部品製造工程において、寸法、重量、形状、機能等を検査



● 搬送・梱包装置(FA装置)

部品製造工程において、材料の供給、機械間搬送、完成品をストック



● アルミ構造物

機械のカバー、機械の付属設備等

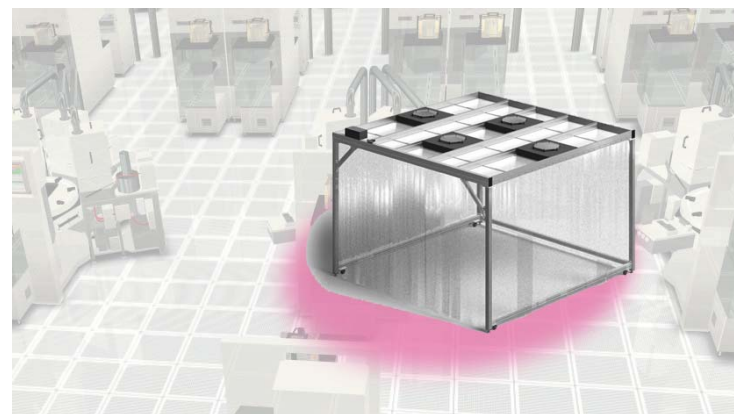


装置部門(3)



- **クリーンブース** 電子、精密部品の製造工程等で、局所をクリーン化

カスタムクリーンブース



標準クリーンブース

- ・ホームページから簡単見積もり
- ・各種レイアウトあわせた350種以上のバリエーション

「ALFA FRAME® SYSTEM」を基本部材として使用することにより、製造の効率化や短納期化が可能

電子部品、家電メーカー、精密機械分野など幅広い業種に納入

● 工場等の機械設備

- 切削加工等の工作機械、自動化・省力化に必要な搬送の機械装置等
- 自動車部品メーカーへの売上比率が高い



● 消耗品



工業用砥石



工具・ツール



油脂類

富山県内の地域密着型商社として、リピート受注が多く、安定した消耗品ビジネス

- 本資料は、当社に関する情報の提供を目的とし、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の業績予想並びに記載された内容は、本資料作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料に対するお問合せは、以下のIR担当窓口にてお願い申し上げます。
＜エヌアイシ・オートテック株式会社 経営企画室＞
TEL: 03-5530-8066 FAX: 03-3570-2381
Mail: ir@nic-inc.co.jp URL: <http://www.nic-inc.co.jp/>